

# 心ふれあい SA吹田通信 206号

発行 SA吹田 ☎ 06-6388-3380 〒564-0004 吹田市原町3-7-2 小川忠夫 ogawatadaosasuita@yahoo.co.jp  
ホームページ <http://sa-renkyo.sakura.ne.jp/active/suita/index.html>  
ブログ:心ふれあいSA吹田

## テレワークで歌体操 5月から4ヶ月間 計50回

吹田市、大阪府各市から延べ1000人参加



### テレワーク歌体操を主催して 小川忠夫

#### コロナウイルス禍で得たもの

まさか、こんなことが出来るとは思いもしなかった。これは参加された多くの方も同じと思う。熊田広報部長の指導の下、zoomを立ち上げた。小川がホストになり、参加される皆さんを招待し、テレワークが始まる。歌体操市民塾が主体となり、大阪府下のメンバーにも呼びかけ35人ほど登録された。延べ50日わたり実施された。加藤SA吹田副会長の指導によりこの間100曲もの歌体操が実施された。よくもまあこの曲数を指導できたものだと感心した。大阪府下のメンバーも、この数を全部こなした。聞けば、講師は毎回予習をして、テレワークに備えたとの事。この努力と歌体操の好きな多くのメンバーによってこのテレワークが成り立ったものと思う。今後も何らかの形で続けられたらいいと思う。

# 一部で活動再開

## 8月4日から

### 亥の子谷コミセンで歌体操市民塾



舌を噛むようなソーシャルディスタンスという言葉を守り、半年ぶりに歌体操の市民塾の例会が開かれました。吹田市のコロナの感染が2週間で100名を超えるという事態にありながら、そろりと活動の再開に踏み切りました。参加者もコロナの心配もあり通常の半数の参加でした。高齢者の仲間達は自分自身の安全を確認しながらの参加であったと思います。指導する方も緊張しながら、各種の決まりを確認しながら慎重に進めていました。10月に予定されている休館中のメイシアターのオープニング行事に参加するための練習に入りました。テレワークでやっている歌体操とは多少違って引き締まった、気合の入った練習ぶりが印象的でした。観戦記 小川

# 世代間交流おもちゃ学校

## NPO法人SA子ども活動塾の紹介

### おもちゃ学校の成り立ち

おもちゃ学校は7年前の平成25年にSA吹田のおもちゃ部会で発足しました。当時、大阪府老人大学も廃止されNPO高齢者大学校からの入会者も殆どなくなり、SA吹田の会員も120名と低迷していました。おもちゃ作りに興味を持ち活動に参加する人を育てようと、「世代間交流おもちゃ学

### NPO法人設立

ところが4年目ごろからおもちゃ部会の負担が大きくて、これ以上おもちゃ部会では運営するのは困難であるという判断になりました。結果として、おもちゃ学校を閉鎖することになりました。メンバーの中から、今までやってきて解散するのはもったいないという話で、存続の道を探ることになりました。結論はNPO法人を立ち上げ、希望者を募り運営することになりました。N

### おもちゃ学校 大阪校の開設

この長年の活動が高く評価され別の財団から表彰され、50万円の表彰金をいただきました。かねてから、この活動を吹田だけにとどめず、もっと広く広めたいと考えていましたので、この表彰金を活かして大阪府全体に活動を広めようと思い、NPO法人

### 今後のおもちゃ学校

今年度は予想もしなかった新型コロナウイルス騒動で今後の見通しが全くできない状況ですが、これを機に運営体も世代交代するチャンスと思っています。

現在すでに「おもちゃ学校 吹田校」はその卒業生の新井憲氏が学校長として全責任

校」を開設しました。初年度は30人の受講生を迎え順調にスタートしました。

卒業生が同期会を作り、新しい子ども工作教室を開設し、子ども達を募集し手作りおもちゃを教える活動を開始しました。それ以後毎年、卒業生の同期会により次々新しい工作教室が開設され、現在6期生まで教えています。

NPO法人の利点は社会的な信用度が高く、その活動が高く評価され、活動資金の助成金が獲得しやすいという事です。活動に参加した人への謝金や材料費もしっかり確保でき、運営面でも大いに助かります。助成金は主として文部省の外郭財団「子どもゆめ基金」に申請して獲得しています。その額は年間150万円ほどになり、これを6年間継続して獲得できています。

「SAネット大阪」と手を組み世代間交流おもちゃ学校大阪校を開設しました。今年はその矢先、新型コロナ感染拡大で4月開校予定が9月にずれ込み、開校できるか微妙になっています。この大阪校の運営主体は「ネット大阪」ですがSA吹田の長澤慎治氏が学校長として運営の中心になります。

を持って運営をしています。またNPO法人SA子ども活動塾も設立時の理事長の小川忠夫が退任し新理事長として熊田真也氏が就任しました。来年度にはSA吹田をはじめいろいろな面で世代交代が進むものと思っています。そのための準備を進めたい。



# 会員の広場

テーマ:自由(活動・趣味・失敗談・想うこと・何でも可)

おもちゃ部会 おもちゃ工房ゆめ 井上博之

3月第2週から定例会、おもちゃ教室が中止になり、外出自粛となりました。この際だから部屋の片付けをと思い取りかかっていると、今まで見つけられなかった物が出てきました。これをどうするかと思案して結局しまっておくことにしました。こんな訳で結局、物の移動だけで片付けになりませんでした。

講座生を含め4年間のおもちゃの作品は50個を超えています。これをどのように管理して行けばいいのか考えていますが難しい問題です。片付けの基本は捨てることにあると言われていますが、捨てる基準があるのかを先人の方々に話を聞く事が出来れば良いと思っています。

歌体操部会 H&S 菅 人美

歌体操市民塾は7月に半数の人数で再開し、8月からは全員対象で実施しています。しばらくぶりの再会に皆さんとても喜ばれていました。

マスクをはめて体操するのはやはり息苦しいものですが、熱中症対策の水分補給もしながら、ゆっくりと無理なく進めていただいているので、安心して参加できます。歌が歌えないのも残念ですが、それよりも身体を動かす心地よさは充分味わうことができています。これからも感染症対策をしっかりと行なって、歌体操を続けていきたいと思っています。

歌体操部会 H&S 宮本 典子

新型コロナウイルス感染拡大する中、SA吹田役員の方々のご尽力により、テレワークが始まりました。

自宅にいながら、画面を通じて最新の技術を経験、皆さんの顔が見れた時安堵し、参加させて頂けた事、嬉しく思っております。三蜜の回避を守りながら、7月から市民塾も始まりました。これまでの様に公共施設で大きな声で歌を唄い、体操が出来る日が早く来る事を心より願っております。

おもちゃ部会 おもちゃ箱・未来 畑貞造

春先の新型コロナ発生以来、自粛自粛の日々は今までの生活を見直さざるを得ないことになるかもしれません。

感染拡大のニュースが伝えられる度、おもちゃ教室の再開はかなりハードルが高くなると思われませんが、何事も前向きにとらえて過ごせたらいいなと思います。そんな中でも十数年続けている庭木剪定のボランティアは継続して行っています。今年は特に長雨と酷暑にさいなまれながらも、どんな状況下においても変わらない植物の持つパワー(生命力)に今更ながら、少しでもあやかりたいと思うことも多くなりました。

**編集後記** 一部活動が再開されましたが、この先どうなるのか全く見通せない中でSA吹田の全体の活動をどうするのか、思案に暮れています。コロナの事態が好転することを祈るのみです。小川忠夫記